



令和7年度「ちっちゃい探検隊（春）」実施報告書

I 事業の概要

1. 期 日 令和8年3月7日(土)～8日(日) 泊2日

2. ねらい

- ・親元を離れ、大自然の中で仲間と生活することを通して、自分で行動する自信をつける。
- ・班の中で自分の意見を言えたり、友だちの意見を聞いたりすることができる。
- ・友だちと力を合わせて活動することを楽しいと感じることができる。
- ・防災をテーマとした体験活動を通して、非常災害時における安全確保のための知識を身に付けたり、意識を高めたりすることができる。

3. 参加対象 小学校1～3年生

4. 応募者 47名

5. 参加者 35名 (大学生サポーター 10名)

6. 参加費 3,100円



7. 日程

3月7日(土)		3月8日(日)	
10:30	受付開始	6:30	起床、テント撤営
11:00	出合いのつどい	7:15	朝のつどい
11:30	☆交流レクリエーション ～集まれ! ちっちゃい防災キャンパーたち!～	7:30	清掃 荷物移動
12:30	昼食	8:00	朝食
13:45	☆防災キャンパー修行 ～ミッションクリアで技を磨け!～	9:00	☆防災グッズ道場 ～作って備えよ! 防災グッズ～
16:15	オリエンテーション 防災グッズ紹介	10:30	☆みんなでほっこり〇〇パーティー!
17:30	夕食	13:30	感想記入 発表練習
18:30	☆みんなでチャレンジ! 暗闇探検	14:15	別れのつどい
20:00	入浴 ☆テント設営	14:45	解散
21:15	消灯		

II 実施状況

■1日目の活動の様子<3月7日(土)天候 曇時々雨>

35名の子どもたちと学生サポーター10名が参加した。防災とキャンプをテーマに防災ワールドで、災害を想定した様々なミッションをクリアし、防災キャンパーバッジを獲得することをゴールに活動がスタートした。

活動の一つ目は、参加者同士の距離を縮めるため、交流レクリエーションを行った。レクリエーション活動を通して、参加者同士で楽しく交流ができていた。

昼食後は、「防災キャンパー修行」と題して館内でイニシアティブゲームを実施した。この活動は、班ごとに館内を回り、水消火器体験や毛布担架、ジャスチャーゲームなど、災害時を想定したミッションに挑戦する活動である。活動の中で使用した水消火器、救助訓練用人形は琴浦町消防署から借用した。班全員で協力しないとクリアが難しいミッションがある中で、班のメンバーで協力しながら最後までミッションに挑戦する姿が見られた。

次は、オリエンテーションとテント設営説明を行った。テントで泊まる参加者が多く、テントの形やテント内の様子に興味津々であった。夕食までの時間には、防災グッズ紹介を行った。防災グッズは、倉吉市防災センターより借用した。参加者は、段ボールベッド、簡易トイレ、ぬいぐるみ型リュックなど、普段はあまり目にすることのない防災グッズに何度も触れて体験していた。

夕食後は、「みんなでチャレンジ!暗闇体験」。停電を想定して、自然の家館内を回り、暗闇の中でミッションに挑戦する活動である。班ごとに懐中電灯の灯りをたよりに暗闇に隠された暗号を見つけたり、ろうそくの灯りをたよりにお菓子の袋を開けたりジュースをコップに注いだりする体験を行った。活動の合間には、暗闇の中でまちがいがしや文字さがしの取り組み、参加者は終始集中して活動していた。

就寝前には生活班ごとにテント設営に取り組んだ。学生サポーターの力も借りながら、進んで設営に取り組んでいた。慣れないテントでの宿泊ということもあり、なかなか寝つけない様子が見られたが、全員が元気に1日目の活動を終えた。

■2日目の活動の様子<3月8日(日)天候 晴>

2日目は、テント撤営からスタート。起床直後にもかかわらず、放送や学生サポーターの話をよく聞き、テキパキと撤営を進める姿があった。朝のつどいでは、朝の体操を大学生サポーターが担当し参加者は朝から元気に体を動かしていた。

朝食後は、読み聞かせを実施。読み聞かせて使用した紙芝居は、琴浦町図書館から借用した。江戸時代に起きた津波をテーマにした「稲むらの火」の紙芝居を大学生サポーターが読み聞かせた。やや難しい題材ではあったが、大学生の上手な読み聞かせに聞き入る参加者の姿が印象的であった。

続いては、「防災グッズ道場」。3か所に分かれて、簡易スリッパ、レインコート、紙食器を作成した。家庭でも作ることができるよう、新聞紙やビニール袋といった身近なものを材料にグッズ作成を行った。飾りつけまで



黙々とグッズ作成に取り組んでいた。

最後のミッションは「みんなでほっこり鍋パーティー!」。災害時の調理を想定して、カセットコンロで鍋炊きごはんとロールキャベツ入りポトフづくりに挑戦した。材料を切ったり、ロールキャベツの餡を絞り出したりと活動班のメンバーで協力しながら調理を進めていた。鍋炊きごはんを食べる際には、防災グッズづくりで作成した紙食器の上にラップを敷き、その上にごはんを入れて食べるようにした。鍋炊きごはんもロールキャベツ入りポトフも美味しく完成し、満足した参加者の様子があった。片付けまでが鍋パーティーを合言葉に班ごとに最後までミッションをやりきっていた。

全てのミッションをクリアし、別れのつどいでは、参加者は防災キャンペーバッジを受け取った。参加者や学生サポーターからの感想発表もあり、1泊2日で得た気づきや学びを話し、一人ひとりが充実した表情で活動を終えた。



Ⅲ 総括

1. 参加者の感想(抜粋)

- ・消火器体験では、確実に水の当たるところにかければ良いと思いました。
- ・「みんなで渡って避難せよ!」で失敗したけど、作戦を練ったらみんなと実行してうまくいったことが心に残りました。
- ・暗闇探検がおもしろかったです。なぜかという、はじめて暗い中でおかしを食べられたからです。
- ・いちばん楽しかったのは、友だちとテントの中でねることです。ちょっとだけしゃべるのが楽しかったし、あまりテントでねることがないからです。
- ・テントで寝るのは初めてだったので、あまり眠りにつけませんでした。
- ・防災グッズ作りが楽しかったです。わけは、災害のことも学べたし、考えて作るのも面白かったからです。
- ・防災グッズの作り方を教えてくださいありがとうございます。これは、いつか使えると思います。
- ・私が心にのこったことは、おふろです。「大ぜいの人と入るお風呂は楽しいな〜。」と思いました。
- ・昼ごはん食べたロールキャベツは、おいしかったけど、肉をまくのがむずかしかったです。

2. 成果

- ・他施設と連携した効果的なプログラムが豊富であった。今後も他施設の力を有効活用し、施設事業の充実に繋げたい。
- ・鍋炊きごはんやロールキャベツ入りポトフを何度も試作したおかげで、当日美味しい料理を提供することができた。
- ・学生サポーターの欠席が多く、班つきサポーターの配置や担当割り振りなど、直前まで担当変更があったが、学生の手厚いサポートがあり、活動を無事進行することができていた。
- ・今回の室内炊飯(ポトフ)は今後熱中症が心配な時期、寒い時期などに活用できるのではないかな。

3. 課題

- ・今後テント泊を行う場合、チラシでの宣伝の段階で、準備物に寝袋が必要なことを明記する必要がある。
- ・あらすじの設定で、司会進行をするのか、物語の設定でセリフとして話しているのか、はっきりしない場面があった。司会進行とキャラクターは明確に分けたほうが、スムーズに進められると感じた。
- ・新規の活動を行う場合は、活動の流れや準備物など見直しをもって早めに準備を進め、活動中に隙間の時間がないかなど見直せるくらいの余裕を持てるようにしたい。
- ・低学年児童を対象とした活動を行う場合、活動1つ1つに時間がかかることを想定し、活動前後の簡潔な指示の工夫やゆとりをもった活動計画を行う必要がある。